



神奈川東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

2011-2012年度 R I 会長 カルヤン・パネルジー



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012年度 第2590地区ガバナー 上澤摩壽雄

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ● 会 長 加藤 仁昭 | ● 会長エレクト 飯田 泰之 |
| ● 副 会 長 伊東 英紀 | ● 副 会 長 山本 登 |
| ● 幹 事 天野 公史 | ● 副 幹 事 西山 潔 |
| ● 会 計 朝日 達夫 | ● 副 会 計 田口 健太郎 |
| ● S A A 山本 芳弘 | ● 副 S A A 吉田 隆男 |
| ● 副 S A A 横 溝 亘 | ● クラブ会報 小 山 市 康 |

●クラブテーマ「感謝・継承・進化」●



写真提供 小池将夫会員

- 事務局** ホテルキャメロットジャパン内 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL : 045-314-3900 FAX : 045-314-3555
- 例会日** 毎週金曜日 0 : 30 ~ 1 : 30 PM (第5金曜日 6 : 00 PM)
- 例会場** ホテルキャメロットジャパン **創立記念日** 昭和 51 年 5 月 29 日
- URL** <http://www.kanagawahigashi.com/>
- E-mail** kerc@beach.ocn.ne.jp

2011-2012年度 **第35週報 No. 1734** 2012年(平成24年) 3月23日 第1734回例会記録 3月30日発行

司 会 西山 潔 副幹事

点 鐘 加藤 仁昭 会長

斉 唱 「手に手つないで」

ロータリーの綱領 川邊 正男 社会奉仕委員長
(第1例会のみ)

四つのテスト 植田 清司 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

誕生日祝 山田 富雄 会員 (4月1日)

結婚記念日祝 白井 康夫 会員 (3月23日)
渡邊 淳 会員 (3月25日)
長井 章 会員 (3月29日)
竹山 洋 会員 (3月29日)
岩澤 利雄 会員 (3月30日)



本日〈3月30日〉のプログラム

夜間例会

入会記念日祝

山本 芳弘 会員 (4月2日)



のことです。②山崎さん、卓話ご苦労様です。

天野公史君 山崎会員、本日は卓話ありがとうございます。若々しい写真やら色々見聞き出来そうで楽しみです。

雨宮和則君 なかなか出席出来ず、申し訳ございません。

伊澤政宏君 先日、曹莹さんの送別会参加の皆様、ご苦労様でした。

脇田いずゞさん 冷たい雨です。梅が寒そうでした！

森永 健君 青柳さん、河野さん、昨日はお世話になりました。

茂木知子さん ~コタキナバルレポートNo4 おいなりさん~ 食べ物のより好みの激しい須永さん、何が一体食べられるのかと聞いたら、恥ずかしそうに“おいなりさん”と答えました。

白鳥厚夫君 河野さん、我妻先生はじめ、ワイン会ありがとうございました。妻と共に楽しめました。

吉田隆男君 曹さんの送別会ご参加の皆様、お疲れ様でした。大学の先生になれると良いですね。

横溝 亘君 山崎さん、本日の卓話、楽しみにしております。

山本芳弘君 ①入会記念をありがとうございます。②山崎さん、卓話楽しみにしております。

3月23日	18件	59,000円
本年度累計		1,579,278円

会長報告

加藤 仁昭 会長

- ・3月21日に米山学友 曹莹さんの送別会を開催致しました。参加下さいました皆様、お忙しい中ありがとうございます。
- ・来週3月27日~28日、宮城県七ヶ浜町に式典参加、及び現地視察に会員12名で行って参ります。

幹事報告

天野 公史 幹事

- ・米山梅吉春季例祭の案内が来ておりますので、回覧致します。
- ・地区より2010-2011年度年次報告書が届いておりますので回覧致します。
- ・2520地区の山田ロータリークラブが作成した、被災にめげずに頑張っている子供たちの文集「やまだの作文」が届いております。数週にわたり、例会時に回覧致しますので、ご一読下さい。
- ・次週、30日の例会は夜間例会となりますので、お間違えのないようお願い致します。
- ・次々週4月6日は例会終了後に社会奉仕によるクラブフォーラムがございます。皆様ご出席の程よろしくお願い致します。

出席報告

金森 欣一 出席委員長

会員総数	56名	(39+17)名	
出席会員数	42名	(33+9)名	
出席率	82.35%		
ゲスト	0名	ビジター	0名
前回補正後	86.28%	前々回補正後	90.00%

スマイルボックス

山本 芳弘 SAA

岩澤利雄君 結婚のお祝い、ありがとうございます。

長井 章君 ①結婚記念日祝い、ありがとうございます。②昨日のワイン会に出席の皆様、お世話になりました。

竹山 洋君 結婚記念日祝い、ありがとうございます。

白井康夫君 結婚記念日のお祝いを頂き、ありがとうございます。今日で結婚して丸10年経ちました。

加藤仁昭君 ①曹莹さんの送別会、横山さん、脇田さん、お世話になりました。②本日の卓話、山崎さん、楽しみにしております。

月山 勇君 先日の曹莹さんの送別会には、横山さん、脇田さんにはお世話になりました。

河野明光君 ①山崎さん、本日の卓話、楽しみにしています。②青柳さん、お世話になりました。

横山範夫君 ①先達ての曹莹さんの送別会、加藤会長をはじめ、ご参加の皆様、ありがとうございます。曹さんから皆様によろしくと

「勝つ為に道拓く」

山崎 善也 会員



私の人生は大半スピードスケートと共にあったようなものです。最初高校時代にスケート場でアルバイトした縁でその魅力に取り付かれ、大学時代にはオリンピック強化選手に選抜されましたがメダルとは縁がありませんでした。

スケート、特に競技としてのスピードスケートは欧米先進国での歴史は百年を超えており、人気も認知度も高く選手育成面も磐石な体制があります。

日本のスケート状況といえば、スキーの陰に隠れた北海道、東北を始めとした寒冷地の地域のスポーツであり、中でもスピードスケートはあまり馴染みのないものでした。その為選手希望者も少なく社会的認知度も高くはありませんでした。

監督就任後、初の世界選手権大会がオスロで開催されました。前年のサラエボ大会で銀を獲得したにも拘らず、現地に入って先ず驚いたことは、各国選手のみならず、マスコミ等からも全く相手にされていない状況と、帯同した選手のおどおどとした不安げな様子でした。

戦う前から臆しており、成績も惨憺たる有様でした。戦える力は前年実績からも明らかなはずでしたが、戦う前にすでに負けている状況、即ち‘外人コンプレックス（体格・体力も桁違いで勝てそうもない・・・等）’を如何に改善させるかが、監督としての最初の仕事であると認識した次第です。

昔から、「心技体」が伴わずして戦に望むなかれ」と云われております様に‘心’を整えること、即ち‘形’から変えるための一助として、ユニフォームの全面改訂を行ないました。出来合いの青いジャージを廃止し、デザイナーと相談し黒を基調に金をあしらった特注品とし、バッグ等小物まで全てを更新し、翌1986年オランダの世界選手権に望みました。形を整えた効果か、率いた選手たちも前年と様変わりし、歩き姿さえ変わり、他国の選手、マスコミからも無視されるようなこともなくなりました。

しかし、即成績に結び付くほど甘い世界ではありませんでしたが、個々の選手が自ら他国選手の動向、食事、トレーニング等々への関心を払う余裕が生まれ、交流が図れるようになりました。この姿を見て、コンプレックス除去の成就と‘心’改革の方向性に誤りはないと確信し「心・技・体」バランスよく指導することを心掛け、第15回カルガリー大会(1988年)では、黒岩選手の銅と橋本選手らの入賞成果を獲るまでとなりました。

私自身の事業の都合もあり、翌年に全日本監督を辞した後も、第16回アルベールビル大会(1992年)、第17回リレハンメル大会(1994年)では、黒岩、橋本、井上選手らの銀、銅の他、入賞者も多数輩出し、安定した成績を収めるようになりました。しかし悲願の金を獲得するまでには至りませんでした。

第18回長野大会(1998年)開催では、JOCならびにスケート連盟の悲願である金獲得との命題を果たすべしとの声も受け、再度1994年全日本監督に復帰することとなりました。

4年後の長野大会での金獲得が命題として課せられたこともあり、如何に獲得目標を果たすか、監督を離れていた期間の内容分析から手をつけました。

過去のメダル・入賞履歴分析から、日本人向き種目への集中を図る為、特定種目・選手への重点強化策を採用するに至りました。

文科省補助金を使用する強化育成に関して、1992年から実施されていた‘ゆとり教育’世論に反するこの施策推進にあたっては、有

象無象の批判・介入等が予測されましたので、関係者のみに留める等の対策を施した上で実施に当たりました。

特に清水・黒岩・岡崎に着目し、オフシーズンである夏季トレーニングでは筋力強化に努めさせました。



岡崎朋美選手の陸上トレーニング

少しばかり専門的になりますが、スピードスケートでは如何に夏季期間で筋力をつけるかが勝負となります。

何故ならば冬季アイススケートリンク上でのトレーニングでは筋力強化は非常に難しく、冬季トレーニングは筋力減少を招くこととなるからです。

更に、海外試合へ数多く参戦させ、試合慣れと外国選手に勝てることの体験等を経験させ、体力的にも心でも劣ることなど何も無いとの実感を得させることに努めました。

試合で良い勝負をすることは、国内外のマスコミの関心を集めること、ならびに国民の注目を高める効果を引き出し、国内開催である長野での国民的関心を高揚させ、選手への良い刺激を与え続けることにも成功しました。選手もこの声に押されるように好成績を挙げることの喜びを知るようになり、結果として皆さんも良くご存知のような好成績、清水選手の金と岡崎選手の銅などを獲得することに至りました。

私としましても、選手の力を借りて名誉ある結末を得られたことにほっとし、色々協力頂いたスタッフ、ならびに関係各位のご尽力の賜物であると感謝した次第であります。

また、日本のアイススケートの新たな歴史の一局面に遭遇出来たことを嬉しく思っております。

最後に、この様な機会を頂きましたことを紙面を借りてお礼申し上げます。



ロータリー歴史探訪

第8回

ロータリーの危機

ロータリーの歴史を顧みれば、深刻な危機が何回となくロータリーを襲い、それを見事に乗り越えていった歴史的事実があります。

最初の危機は1907年から1910年にかけて起こった「親睦か奉仕か」を巡る論争です。

原始ロータリーは、会員相互の親睦と事業の発展を願ったエゴイズムに満ちた出発であり、そこに社会に対する奉仕という概念が持ち込まれたことによって混乱が起こります。それを打開する手段として、ロータリークラブ連合会が設立され、奉仕理念や拡大といったクラブの親睦を阻害する可能性のある事項をここで扱うことによって、最初の危機を脱することが出来ました。

第二の危機は1923年の「奉仕活動の実践」を巡る論争です。ロータリーの活動の主流は、職業奉仕の理念に基づく活動であると主張する一派と、世の中に不幸な人がいる限りそれを救済するのが先決であるという社会奉仕活動に重点を置く一派との論争です。これは I serve か We serve か、精神的活動か金銭的活動かにまで発展し、まさにこれもロータリー分裂の危機を孕んだ論争になりました。これは、決議23-34によって、職業奉仕理念をロータリーの哲学におくことを前提としながら、一定の枠をおきながらも団体的、金銭的奉仕活動を認めるということで回避したわけです。

そして、第三の危機は、1929年から第二次世界大戦にかけて起こった、ロータリーに対する逆風です。1929年10月、ウォール街の株価暴落に端を発した世界大恐慌は悪化の一途をたどります。

それに追い討ちを掛けるように、1930年、ロータリーの奉仕理念の提唱者であったフレデリック・シェルドンが、突如ロータリーを去ります。1929年のダラス国際大会で、彼のモットー He profits most who service bestを廃止しようという決議29-7が、RIBIから提案され、これを支持するクラブがアメリカからもかなり出たことや、決議23-34で制限がかけられたはずの奉仕活動の実践が、「身体障害児童の救済事業」として、同大会で決議されたことが原因だという人もいますが、真偽のほどは定かではありません。

シェルドンという偉大なる精神的な基盤を失ったロータリーは、経済不況も加わって、急速にその勢力を殺がれていきます。

1932年12月のシカゴ・クラブの統計によれば、会員数670名のうち、半期60%の出席義務を満たさなかった会員は213名に上っており、クラブ管理そのものが破綻していたことが窺えます。この時期におけるシカゴ・クラブの入会者と退会者の一覧表を見ると、退会者が激増している状況が一目で判ります。

年度	入会者数	退会者数	年度	入会者数	退会者数
1922-23	59	54	1928-29	113	49
1923-24	65	71	1929-30	109	58
1924-25	72	50	1930-31	86	82
1925-26	75	57	1931-32	73	89
1926-27	106	50	1932-33	62	101
1927-28	98	61			

世界の統計をみても、1932年から1935年と1941年から1944年にかけて(これは第二次世界大戦によるもの)会員数が減少しています。この状況に危機感を抱いたシカゴ・クラブ会長ジョージ・ハーガーは、1933年、シカゴ大学社会科学調査委員会に対して、シカゴ・クラブの徹底的な分析を依頼します。同委員会は、アンケートや提供された資料を基にして、翌34年に報告書「ROTARY?」を出版しました。しかし、その内容があまりにもロータリー運動に批判的であった為、ポール・ハリスは、ほぼ完成の域にあった彼の著作「This Rotarian age」の発行を遅らせて、その内容を書き直したという逸話が残っています。

1929年から始まった世界大恐慌は悪化の一途をたどり、1932年に共和党のフーバー大統領(アーカンサス州ブルッフ・ロータリークラブ会員)に代わって、民主党のルーズベルトが政権を取りました。

1933年のシカゴ・クラブのアンケートによると、共和党支持者72.59%、民主党支持者8.64%、であることから解るように、圧倒的なロータリアンの支持を受けていた共和党のフーバーが破れて、ライオンズの支持の多かった民主党が政権をとったわけです。

その直後に、ララミー・クラブの副会長を務め、その後R I事務局に勤務していたポール・ハリスの弟レギナルト・ハリスがロータリーからライオンズに鞍替えするという事件が起こります。

1927年から1932年までの間、レグはロータリーの場で働きましたが、勝ち馬に賭けることを欲した彼はライオンズに移籍しそれ以来、私達と共にあるのです。

[Lions International公式文書 田中毅訳]

1933年3月に発足したルーズベルト内閣は、直ちにニュー・ディール政策を打ち出して、金本位性の廃止、TVA開発などの公共事業の創出、国家産業復興法に基づく企業活動と労使関係を規制する政策を実施しました。

ロータリアンを中心とする実業界と対立を深めながらも、一応経済危機を回避したかのように見えたニュー・ディール政策も、結局は功を奏せず、1937年の夏には「恐慌の中の恐慌」と呼ばれるほどの危機的状況を迎えます。そこでアメリカ政府が選択した道は、当時、緊張が高まりつつあった国際情勢を利用した軍事産業の積極的な育成であり、アメリカ経済は戦時体制の下で、やっと不況から抜け出すことに成功するのです。

* 参考文献 田中 毅 著 「ロータリー歴史探訪」

会長 加藤 仁昭

宮城県七ヶ浜町訪問の報告

宮城県七ヶ浜町復興支援品贈呈式に出席して

3月27日、28日の両日に、かねてより打合せしていた宮城県七ヶ浜町への支援品が出来上がったので贈呈式(28日10時より)へ会長始め計12名にて出席してきました。

27日は震災後1年たった石巻の復興状況を現地ボランティアガイドさんに説明を受けながら視察しました。1年経って瓦礫等は数箇所には片付いた様に見えましたが、瓦礫の本格的な処理はまだこれからであり、住居等の建設もまだまだ進んでいませんでした。

夜は宿泊地で七ヶ浜ロータリークラブの山崎会長を始め計13名の会員との交流会を開催し、胸襟を開いた話をしました。

山崎会長から、会員の心のケアが出来ましたと喜びの声を頂きました。

28日は朝10時より七ヶ浜町役場に於いて渡邊町長を始めとして消防団長等の出席で支援品贈呈式を行いました。

当クラブとしてはふるさと納税での支援もあり、町長からは大変感謝しますとの挨拶を受けました。

今回の式典出席、及び視察に行き、次年度以降も支援と交流が続けられれば良いと感じました。

社会奉仕委員会 委員長 川邊 正男



七ヶ浜の漁港沿岸の復興が進まない状況



まだまだ片付かない瓦礫が散乱している（石巻市内にて）



除塩が待たされる七ヶ浜の田畑と散乱した瓦礫



このような瓦礫の山があちこちに見られる（石巻市内にて）



加藤会長から渡邊町長へ支援品贈呈
（左は七ヶ浜RCの山崎会長）



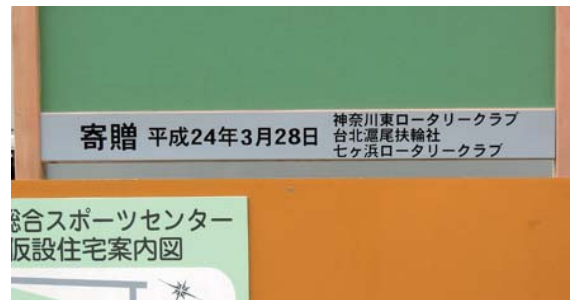
贈呈式終了後の記念写真



贈呈された「町内掲示板」



贈呈された「バルーン付投光機」



OWOP協会より七ヶ浜町子育て支援センターへ本棚寄贈



七ヶ浜町の仮設住宅

次回《4月6日》の卓話予定
 テーマ「未定」
 経済評論家 財部 誠一 様
 (紹介者 加藤 仁昭 会員)